

立教大学 スポーツウエルネス研究所学術研究推進資金
大学院生研究 2025年度研究成果報告書

研究科名	スポーツウエルネス学研究科	
指導教員	所属・職名	氏名
	スポーツウエルネス学研究科・教授	松尾 哲矢
研究課題名	ボディビルダーたちの対峙する世界：ボディビルダーたちの実践と語りを手掛かりに	
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名
	スポーツウエルネス学研究科・スポーツウエルネス学専攻・博士課程後期課程4年	堀田 文郎
研究期間	2025年度	
研究経費	(支出金額) 99,972円 / (採択金額) 100,000円	

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、生活空間・ジム空間・コンテスト空間という三つの空間が総体として織り成す「ボディビルダーたちの対峙する世界」を描出すること、その上で、「ボディビルダーたちはなぜ、筋肉を鍛え上げることに心血を注ぐのか」という問いについて検討することを目的としたものである。本研究では、筆者がこれまでに実施してきたボディビルダーへの質的社会調査をもとに議論を展開した。また、議論を展開するにあたっては、ボディビルダーたちの「からだ」を、社会の論理にも自己の意識にも還元しえない独自の能動性を有する「肉体」として捉える視座に立脚し、この「肉体」概念を考察の準拠点としながら議論を展開した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[スポーツ社会学] [ボディビル] [肉体]

研究成果の概要 (600~800字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究ではまず、「ボディビルダーたちの対峙する世界」が、①肉体との敬虔な対話に身を投じながら振る舞いを規律していく、いわば「肉体信仰」が実践される場としての生活空間、②「肉体と誠実に向き合う」というボディビルダーたちの実践によって構築されるとともにボディビルダーに固有の信念と実践が再生産される「神聖な教会」としてのジム空間、③ボディビルという世界における共同性と「正しさ」と律動を周期的に再生産する「祝祭」としてのコンテスト空間、これら三つの空間の連関によって織り成されている、という構図を明らかにした。

その上で本研究から導出されたのは、「ボディビルダーたちの対峙する世界」とは、「肉体と誠実に向き合う」という信念と実践がその枢要となって織り成される世界に他ならない、という考察である。ここでいう「肉体と誠実に向き合う」とは、自身の体感する感覚(痛み・パンプアップ・空腹・むくみ・疲労…)から肉体が織り成す独自の律動を把捉し、それに合わせて自身の振る舞いを柔軟に調整していく実践的な態度を意味する。本研究で看取されたのは、生活空間・ジム空間・コンテスト空間のそれぞれの空間において、ボディビルダーたちが「肉体と誠実に向き合う」実践に身を投じる様相であり、まさにそのボディビルダーたちの信念と実践が一つの固有の世界を織り成している様相であった。

以上の議論を踏まえ、本研究ではその初発の問いである「ボディビルダーたちはなぜ、筋肉を鍛え上げることに心血を注ぐのか」について考察を行った。この問いについて本研究では、ボディビルダーたちにとってボディビルという営為は、肉体や感覚という疑いえない現実へと自身の生活や存在を専心させることで、不確実で不確定な、そうであるがゆえに、自己や現実の本質を絶えず問い直さなくてはならないような現代社会を生き抜くための営みとして意味を成している、という考察を提出した。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。)

該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④ その他

- ・堀田文郎、「ボディビルダーたちの対峙する世界—ボディビルダーたちの実践と語りを手掛かりに」、立教大学博士学位論文、2026年